

# 日本のこともっと知りたい

いま No.469  
子どもたちは  
だから海外留学 12

両腕をぐるぐる回した後、腕を組む。早稲田大1年の山本幸多郎君(19)は今、AKB48の曲に合わせて踊る「オタ芸」の練習に励んでいる。熱烈なファン

だからではない。今月末、ボランティア活動でベトナムを訪れた際、現地の学生との交流会で披露するためだ。

「最近まで、オタ芸も、日本の社会や文化もよく知らなかった。今は、すべてが新鮮です」

小学6年から高校3年までニュージールランドに留学していた。きっかけは、小5の冬休みに参加した豪州シドニー郊外のホームステイだった。会社員の父とパート勤務の母の勧めで

嫌々行ったが、ホストファミリーには自分と年の近い姉弟がいて、一緒に庭のプールやトラampolineで遊んだ。2週間、毎日楽しくて仕方がなかった。

楽しみながら英語も話せるようになるなら、一石二鳥じゃないか。「留学したい」。両親に頼み、小6の4月、ニュージールランドの公立校へ。親には「つらかったら帰っておいで」と言われたが、「自分で言い出したのに、帰ったら負けたという気が

した」。外国人生徒を対象とした授業で、先生がわからない単語を話すと、「待ってくださ



がした」。外国人生徒を対象とした授業で、先生がわからない単語を話すと、「待ってくださ

仲のいい同級生と遊ぶ山本幸多郎君(左)。「夏休みに広大な芝生でラグビーやサッカーをするのが楽しかった」(本人提供)

い」と授業を止めて、辞書で調べた。「とにかく必死だった」

何年かたってすっかり慣れたころ、「日本人として日本のことを知らなくていいのか」との思いに駆られた。高校から帰国しようか。でも、ニュージールランドの数学の授業では、関数のグラフ作成で電卓を使う。学年相応の漢字も書けない。目標を大学受験の帰国子女入

試に絞った。親に段ボール2箱分の日本語の本を送ってもらい、読書に明け暮れた。おかげで、現代文は得意に。でも、小論文は苦勞した。週に2回、小論文を書き、日本の予備校に送って添削してもらった。

一昨年初、早大に合格。決めた手は英語力だったと思う。でも、一部の教科の基礎学力や、日本での常識感覚が足りないのではないかと心配だ。「留学で得たものの方が大きい。失ったものもある」。必要なことはしっかり取り戻していきたい。(杉山麻里子)